

価格.comのデータを分析した最新トレンドをお届けする「価格.comレポート」

パソコン、家電製品にもじわりとはいよるインフレの影
液晶テレビ、高級コンデジ、ノートパソコンのいずれも値上がり傾向に
今後、価格上昇はさらに多くの製品カテゴリーにも波及！？

価格の下げ止まり&反転上昇傾向が見られる「液晶テレビ」

ここ2年ほど、液晶テレビの販売不振が大きな話題となっている。それまで家電業界を牽引してきた主力製品であった液晶テレビが、2011年夏に実施された地デジ移行完了に伴い、それまでの好調の反動でぱったりと売れなくなってしまったというものだ。これに伴い、余剰在庫による供給過多の状況が生まれ、液晶テレビの販売価格はずるずると下がり続けた。今や、そこそこ高画質の40インチクラスの製品でも7-8万円台、その下の32インチクラスとなると3万円台というのが当たり前のようになっている。

しかし、この3~4月の液晶テレビの販売価格を見てみると、価格がある水準で下げ止まり、逆に値上がりしている製品も見られるなど、これまでとは若干異なる動きが出てきている。図1は、価格.comの「[液晶テレビ](#)」カテゴリーにおける人気製品ベスト5の最安価格の推移を「*[価格.comトレンドサーチ](#)」で抽出しグラフ化したもの。これによると、5製品のいずれも3月上旬あたりから値上がり傾向に転じているのがわかる。特に、比較的高価格帯のソニー「BRAVIA KDL-55HX950」「BRAVIA KDL-55HX850」、東芝「REGZA 42Z7」の値上がり幅が大きい。ソニーの2製品に関しては、発売からほぼ1年経つため、来たるべきモデルチェンジに備えての在庫調整といった側面もあると考えられるが、東芝「REGZA 42Z7」は、昨年秋発売の新型モデルであるため、一般的に、この時期に値上がりすることはない(図2)。

図1:「液晶テレビ」カテゴリー人気5製品の最安価格推移(直近3か月)

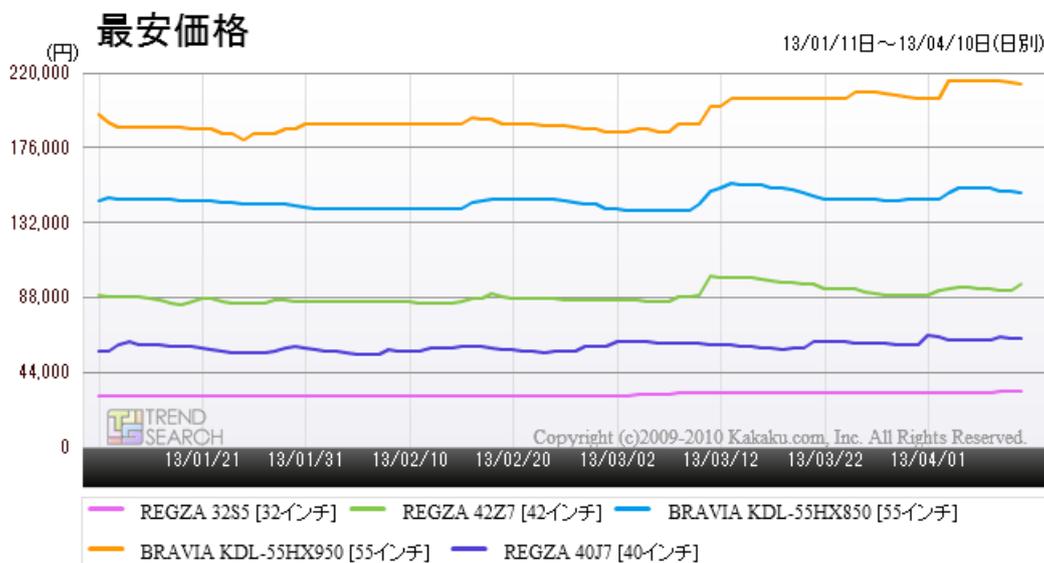
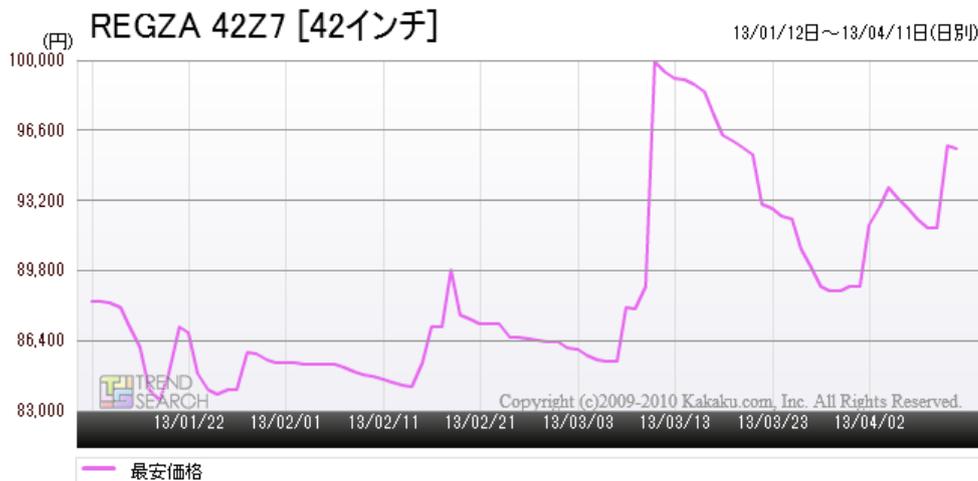


図 2: 東芝「REGZA 42Z7」の最安価格推移(直近 3 か月)



さらに高級モデルだけでなく、3万円台前半の販売価格がついている32インチモデル、東芝「REGZA 32S5」についても、少し前までは3万円を切る最安価格だったものが、3月7日以降3万円台を回復し、そのまま2,000円ほど値上がりしてきている。こちらも、メーカー側の生産調整や、在庫コントロールの影響も多少考えられるが、液晶テレビに関しては、全体的にこれまでの値下がり傾向が底を打ち、値上がり傾向に転じてきていると言っていだろう。

* 価格.comトレンドサーチ : <http://kakaku.com/trendsearch/>

『価格.com』に蓄積される各種データを集計・分析できる独自ツール

人気の「高級デジタル一眼カメラ」も、価格は若干上がり気味

液晶テレビとはやや対照的な動きをしてきたのが、「[デジタル一眼カメラ](#)」である。「デジタル一眼カメラ」については、ここ1~2年、より本格志向の高級製品に人気が集まってきており、「フルサイズ」と呼ばれる大型センサーを搭載した、上級モデルが人気を集めている。その代表格ともいえるのが、昨年2012年春に発売されたニコン「D800」や、キヤノンの「EOS 5D MarkIII」だ。これらのフルサイズ機は、30万円以上の高値で発売され、発売から半年ほどしても、ほとんど値崩れがない形で高値安定を続けてきた希少な存在といえる。

しかし、2012年の年末にかけて、ニコン「D600」などの下位モデルがリリースされたこともあり、これら上級モデルの販売価格も大幅に値下がりし始めた。もっとも下がった時期には、ニコンの「D800」が21万円台、キヤノンの「EOS 5D MarkIII」が25万円台まで値下がりしている。ところが、年が明けて、この1~3月くらいからこの値下がり傾向に歯止めがかかり、2013年4月11日時点では、ニコンの「D800」が23万円近く、キヤノンの「EOS 5D MarkIII」が27万円近くまで最安価格が上昇している(図3、図4)。値上がりと言うにはやや微妙なところもあるが、発売から1年が経過し、さらに値下がり加速しそうな場面でもちこたえ、逆に値上がりに転じるというケースはなかなかない。この1~3月以降、価格上昇に転じたのは、後ほど述べる円安の影響もあるだろうが、長期間にわたり、製品への需要が高めに維持されているという背景が大きいといえるだろう。

図 3:「デジタル一眼カメラ」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)

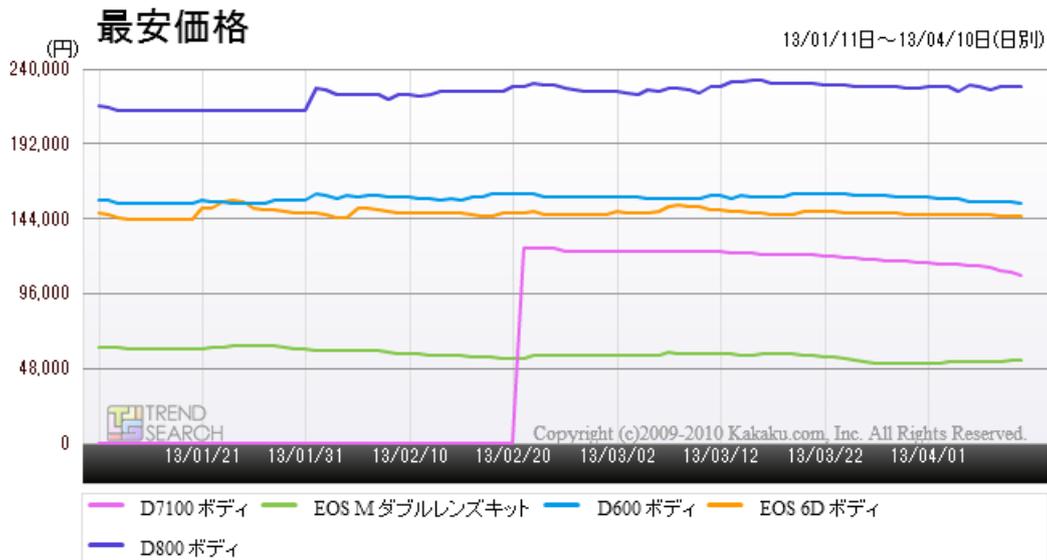
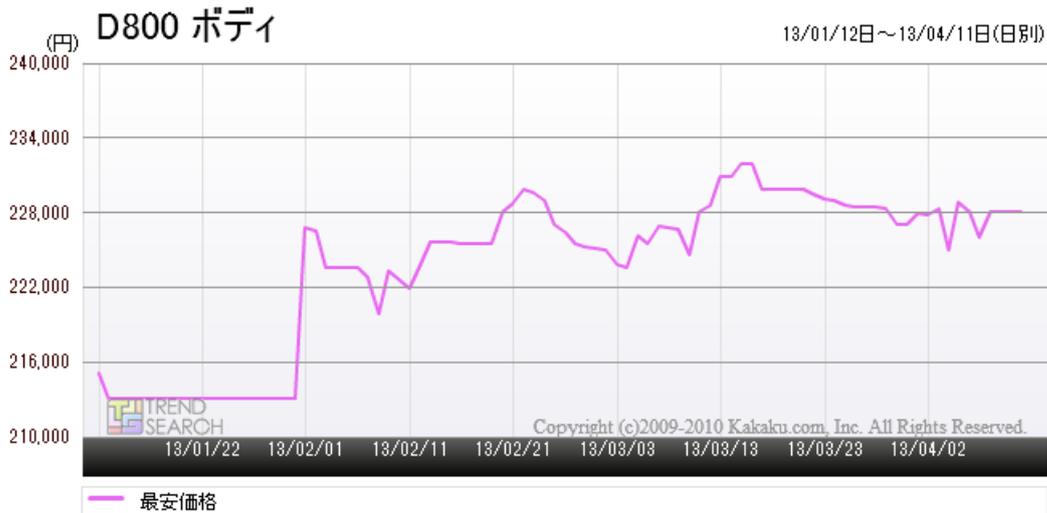


図 4:ニコン「D800 ボディ」の最安価格推移(直近 3 か月)



円安が影響? 「SSD」などのストレージ製品と、海外製「ノートパソコン」も値上がり

上記の液晶テレビや高級デジタル一眼カメラとは異なる意味で、値上がりしている製品もある。それは、「円安」の影響を大きく受けるPCパーツ関連製品だ。なかでも、ストレージデバイスの「SSD」は、円安の影響をそのまま受けたような価格推移となっている。

図 5 は、価格.com の「SSD」カテゴリにおける人気製品ベスト 5 の最安価格推移だ。すべての製品がここ 3 か月程度で 1~2 割以上の値上がりを見せているのがわかる。一番人気のインテル「335 Series SSDSC2CT240A4K5」を例に見ると、もっとも価格が安かった 2012 年 12 月 3 日時点の最安価格は 13,783 円であったのが、その後急激に値上がりしはじめ、2013 年 4 月 11 日時点では何と 17,800 円という価格にまで上昇している(図 6)。4 か月程度で実に 3 割近く値上がりしたことになる。このほかのモデルも軒並み 1~3 割程度値上がりしているが、これは、為替相場で 1 ドル 80 円前後から 100 円前後まで円安が一気に進んだ影響と考えられる。

図 5:「SSD」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)

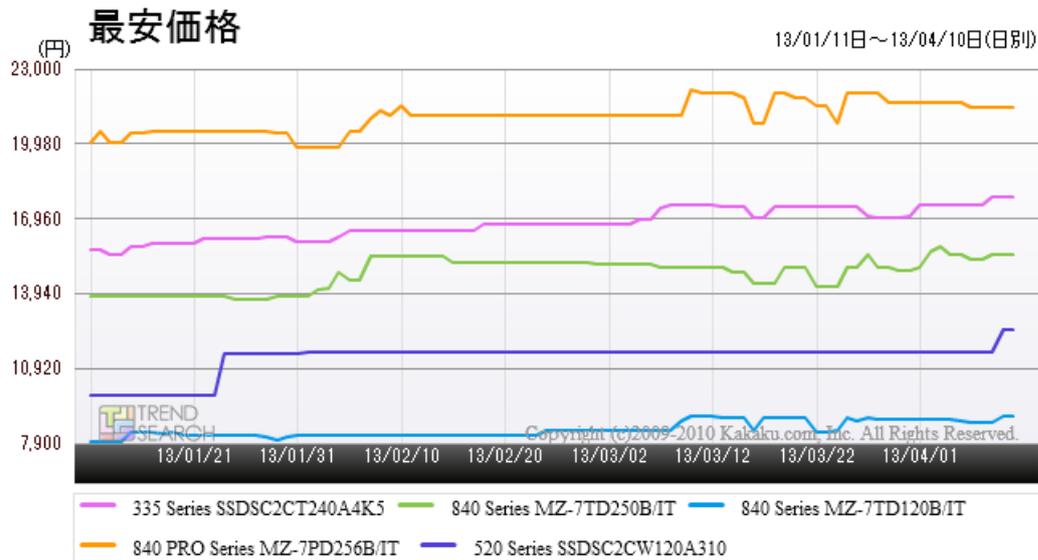
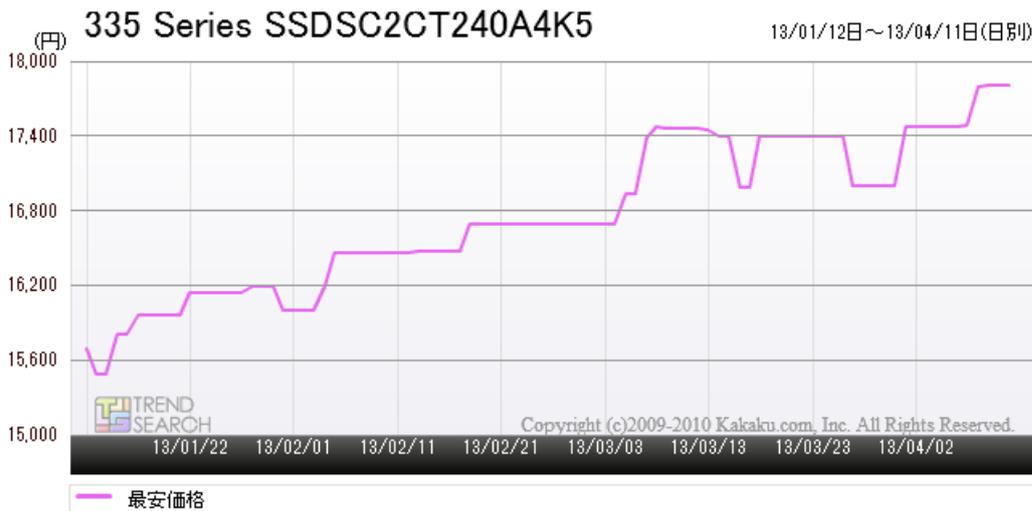


図 6:インテル「335 Series SSD SC2CT240A4K5」の最安価格推移(直近 3 か月)



なお、ほかの PC パーツに関しては、メモリー製品が同様の値上がり傾向を示しているものの、それ以外のカテゴリに関しては、これほどの値上がり傾向は今のところ見られない。メモリーや SSD などのストレージほどの需要がないことと、製品サイクルが短いことから、その時々々の為替相場変動がさほど影響しないことが理由と思われるが、このままの円安状況が続けば、これから登場する新モデルから価格が上昇する可能性も考えられる。

また、PCパーツと同様、海外生産あるいは海外からのパーツ調達の多いパソコン本体に関しても、円安の影響はじわりと出てきている。価格.comの「[ノートパソコン](#)」カテゴリにおける人気製品ベスト5の最安価格推移(図7)からも、全体的に価格は横ばいないしは若干値上がり傾向にあることがわかる。長らく価格.com上で人気となっている、中国メーカーLenovoの「Lenovo G580 2189DCJ」の最安価格を見ると、もっとも安かった2月中旬には、39,980円という最安価格を記録しているが、4月11日現在では44,970円にまで上昇している(図8)。同様に、HPの「Pavilion dm1-4303AU 価格.com限定モデル」についても、

24,780 円から 28,980 円に値上がりを見せている。いずれも、この 2 か月以内の急激な価格上昇であり、為替相場が急激に円安になったのと符合する。

図 7:「ノートパソコン」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)

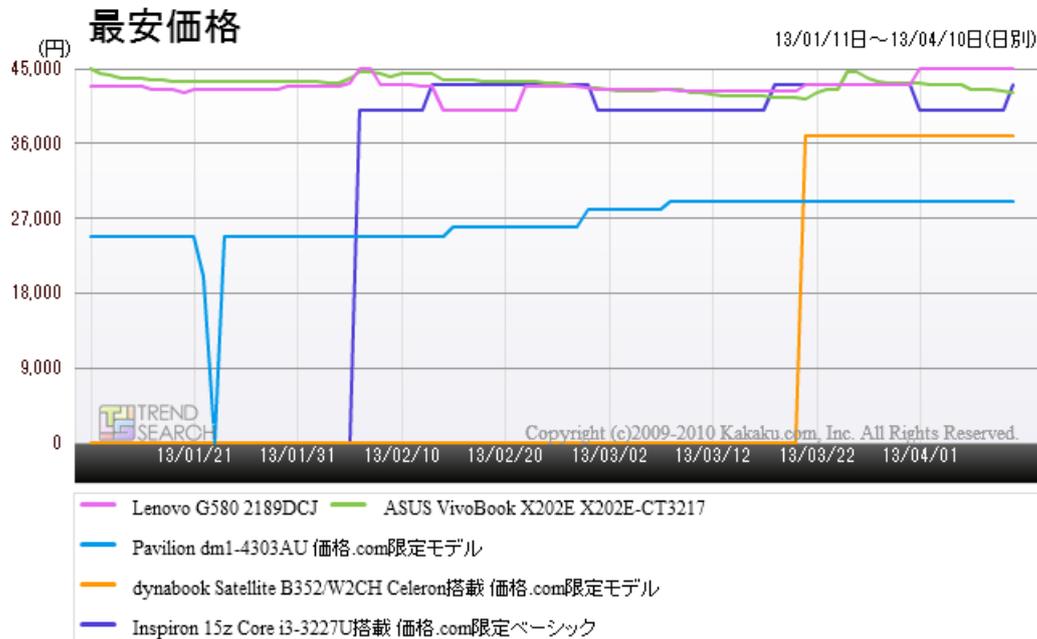
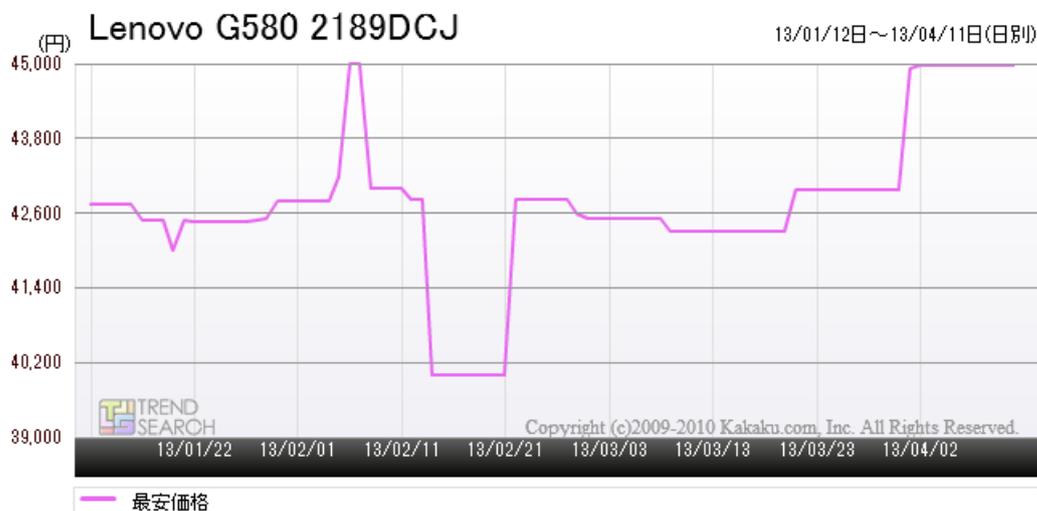


図 8:Lenovo「Lenovo G580 2189DCJ」の最安価格推移(直近 3 か月)



現状、値上がり傾向が見られるのは一部カテゴリーだけだが、この 5 月以降、新製品が値上がりする可能性は大きい

以上のように、いくつかのカテゴリーでは、この春、価格が値上がり傾向を示しているが、もちろんすべての家電製品やパソコン関連製品が同じような動きを示しているわけではない。円安の影響をあまり受けない家電製品や、供給過多の状況が続くコンパクトデジカメなどのカテゴリーでは、従来と値動きが変わったところはない。

図 9:「掃除機」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)

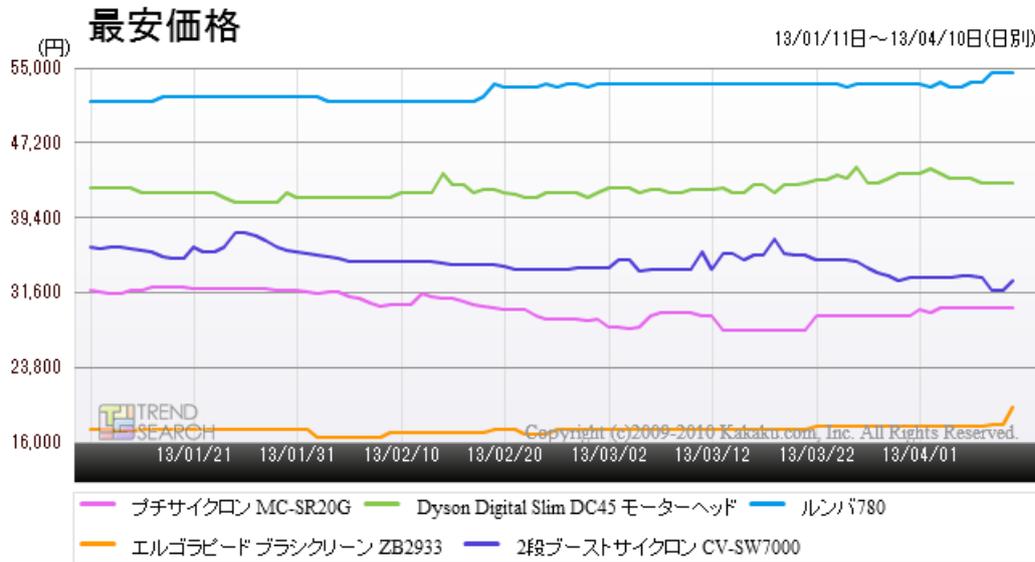


図 10:「電子レンジ・オープンレンジ」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)

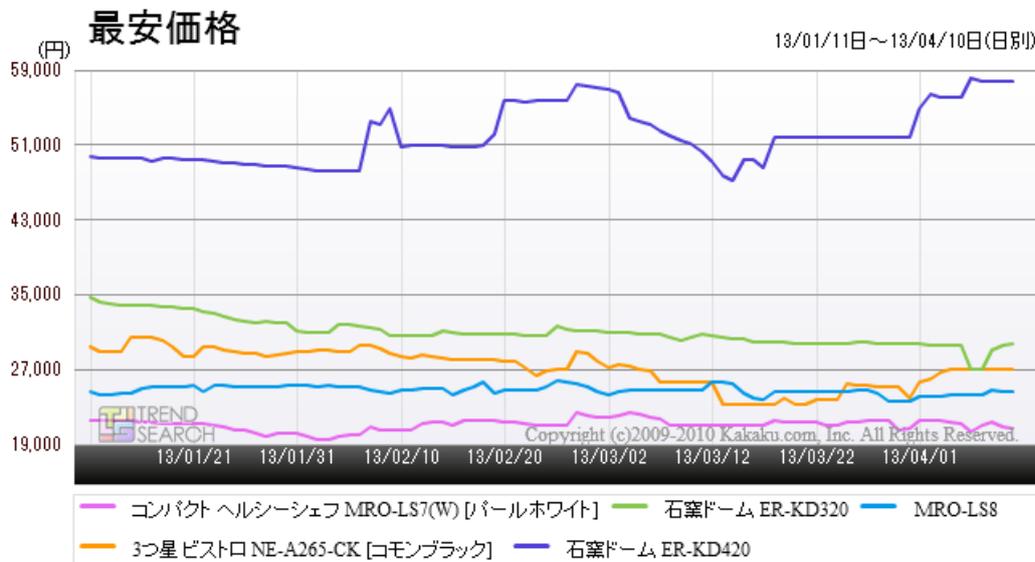
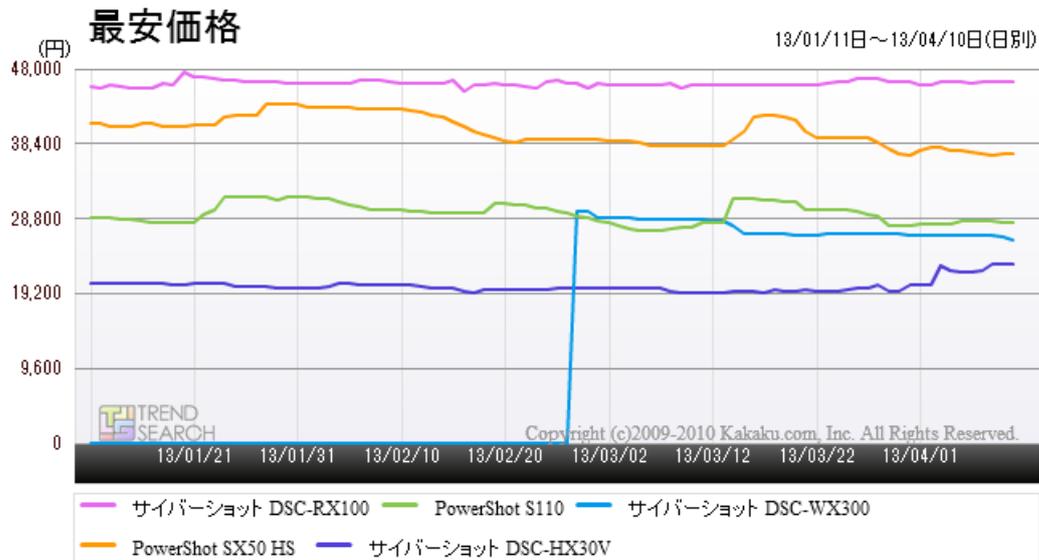


図 9 は、価格.comの「掃除機」カテゴリの人気製品ベスト 5 の最安価格推移だが、新生活シーズンということで 3~4 月にかけ需要増に伴う価格上昇は見られるものの、全体的に値上がりしているというほどではない。「電子レンジ」(図 10) も同様で、一部の製品を除けば、値上がりをしているモデルはない。こうした白物家電などについては、今のところ値上がり傾向は見られない。また、ここ数年需要が減少し続けている「コンパクトデジカメ」についても、一部のお買い得モデルがスポット的な人気によって値上がりしている以外は、製品価格はほぼ横ばいか、若干値下がりという状況だ(図 11)。

図 11:「デジタルカメラ」カテゴリ人気 5 製品の最安価格推移(直近 3 か月)



このように、現在値上がり傾向に転じているのは、一部の製品カテゴリだけという状況ではあるが、現在流通している製品の在庫がなくなり、新モデルへ切り替わってくるこれからの時期、円安による部材価格の上昇が製品価格に転嫁されてくる可能性は十分にある。不振と言われ続けてきた液晶テレビ市場も、長きにわたるメーカー側の生産調整によって供給過多の状況から脱しつつあり、これまでのような価格水準で製品が販売されるようなことはなくなってくるだろう。おりしも、世の中がインフレ方向に動いていることもあり、今後、より多くの製品カテゴリで価格の上昇傾向が予測される。

■過去のレポート一覧は、以下より参照いただけます。

<http://kakaku.com/trendnews/weekly/>

【価格.com サイトデータ】(2013 年 3 月末現在)

月間利用者数 4,585 万人、月間ページビュー10 億 4,157 万 PV、累計クチコミ件数約 1,600 万件。

データの引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。
例)「価格.com トレンドサーチ」調べ、「価格.com」のデータ分析によると...など